

## 「地域の論点」 論点 4

「湯の丸」から金メダリストを生み出したい

東御市湯の丸高原スポーツ交流施設

屋内運動施設（特設プール）

管理責任者 小山 和晃

### 「東京オリンピック 2020」に関わりたい

私は幼いころから水泳をやっており、社会人になってからも大会参加や競技会運営に携わってきました。私にとって水泳に関わっている時間は何よりも代えがたいものです。社会人になり仕事を精一杯やりながら水泳も楽しんでいた 2013 年 9 月 8 日、IOC 総会で 2020 年のオリンピック・パラリンピック（以下、「オリ・パラ」）の開催都市が東京に決まりました。この時から私は漠然とどんな形でもいいからオリ・パラに関われたらと思っていました。

私の大学の後輩に北京・ロンドン・リオデジャネイロパラリンピックに出場し、銀メダルと銅メダルを獲得している木村敬一<sup>1</sup>選手がいます。彼とは普段から仲良くさせていただいて、オリ・パラと関われることについて相談していました。しかし、やはりなかなか難しいもので、この相談が直接実ることはありませんでした。

### 現職に就くきっかけ

ある時、親しくしている会社の同期が家業を継ぐために退職することになり、家業を一緒にやらないかと誘われたことがありました。その時はお断りしましたが、これが転職を考えるきっかけとなりました。その後、水泳関係の先輩に「好きな水泳に関わる仕事がしたい」と相談しました。すると、相談したことも忘れかけていた 2019 年 2 月頃、その先輩から東御市にできる水泳施設で水泳に詳しい人材を探しているという話を聞きました。そこは、トップアスリートの高地トレーニング施設で、オリンピック内定選手や候補選手が活用するとのことで、まさに希望していた「水泳に関われる仕事」であり、「オリ・パラに関われる仕事」でした。まず、設置者である東御市の担当者<sup>2</sup>と面談を行いました。その後、特設プールを管理する株式会社オーエンス<sup>2</sup>にも話が伝わり、会社側は水泳に詳しく選手特性がわかる人材を探していたようで、私はその条件に偶然にも一致して、管理責任者にしても良いのではないかと、話がトントン拍子に進んでいきました。こうして、2019 年 10 月 1 日から今の職場で働くことになりました。

---

<sup>1</sup>日本の競泳選手。2008 年北京パラリンピック・2012 年ロンドンパラリンピック・2016 年リオデジャネイロパラリンピックの競泳競技に日本代表として参加し、ロンドンとリオデジャネイロ大会では銀メダルと銅メダルを獲得した。日本パラリンピアンズ協会の理事も務める。

<sup>2</sup>東京都中央区に本社を置くビルメンテナンス事業を主業務とする会社であるが、指定管理者としての多くのスポーツ施設の実績もある。（参照：<https://www.o-ence.co.jp/works/results.html>）

## GMO アスリーツパーク湯の丸について

一言で伝えるとすれば、「アスリートのための高地トレーニング」施設です。高地トレーニングは、酸素濃度の薄い高地でトレーニングを行い、心肺機能や筋肉機能を向上させることで、総合的運動パフォーマンスも向上させていくというものです。日本のトップアスリートたちも海外の高地に出向き練習を重ねることで好成績を残してきています。ただ、費用負担が大きく、移動や海外生活でのストレスといったリスクがあるのも事実です。何とか国内で高地トレーニングができないかという要望に応えたのが、「GMO アスリーツパーク湯の丸」になります。本州の中央部に位置する長野県東御市にあるため、東からも西からも無理なくアクセスが可能です。東京からの距離は約 200 kmで北陸新幹線や上信越自動車道が利用しやすく、移動時間は最短で約 2 時間 30 分ほどです。

日本陸上競技連盟や日本水泳連盟など、競技関係者からの想いを受けてできたこの施設は、東京オリ・パラで多くのメダリストを出すことが喫緊の目標です。そのために、日本で一番高い所に 400mトラックを作り、標高 1,735mの高地トレーニング用 50m屋内プールは日本初になります。その他、バリエーション豊かなトレーニングメニューを組めるよう、ランニングコースやトレーニングルームが用意されており、バックアップ体制は万全に整っています。



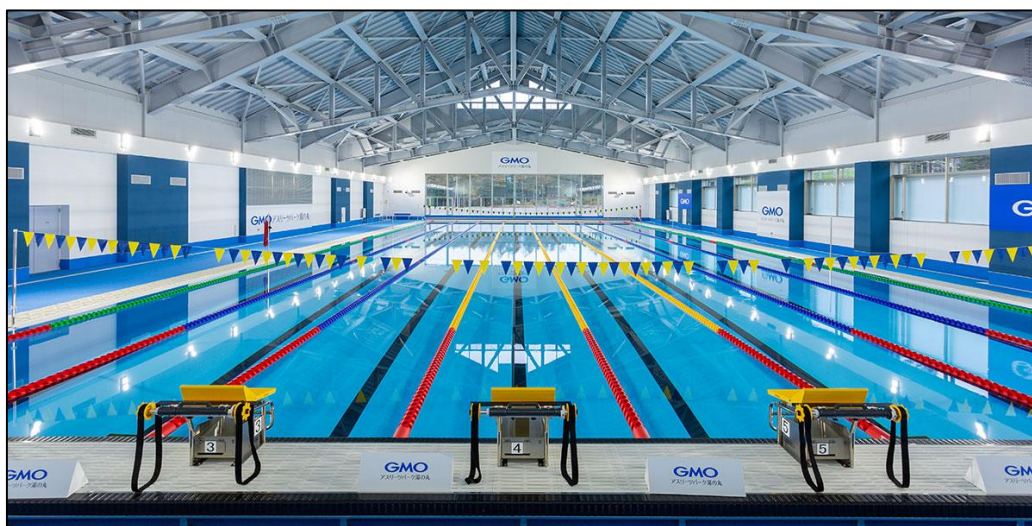
↑施設のフロアガイドより

## 現職での役割

私は屋内プールの管理責任者をしています。指定管理者の株式会社オーエンスは、ただ施設を管理するだけの人材ではなく、選手の特徴が理解できてコミュニケーションを取ることができる人材を探していました。前述したとおり、私は水泳をずっと続けていたので偶然白羽の矢が立ったという訳です。タイミングや運が本当に良かったと思っています。

さて、この施設は出来たばかりですのでルールやマニュアルなどが何もない状態でスタートしています。管理責任者として1から作っていかねばなりませんので、私の役割はこの施設の運営を軌道に乗せることだと思っています。

現在では、この施設を利用されるのは主に選手などの現役アスリートとそのスタッフです。選手やスタッフは、国内はもちろん海外の多くの施設を利用して見えています。私たちにとっては良い意味で厳しい目を持っている良いお客様です。施設として選手の合宿などをサポートする立場として、可能な限りコミュニケーションを図り、練習しやすい環境を整えられるよう努力していますが、お客様から教えられる部分はとても大きいものです。方針を示しながらマニュアル作りをしています、日々試行錯誤であり、うまくいかない場合もあります。そうした中で、誠心誠意こちらが考え行動していると、お客様は喜んでくれますし、視野を広げてもらっているという表現が適切かと感じています。私が良いと思っで行っているサポートが実際は良いものとは限らない場合も当然ありますので、こういったあたりはコミュニケーションを取りながら利用される方にとってより良い施設となるようお客様と一緒に作り上げているという感覚です。



↑屋内プール写真

## コロナ禍での想いについて

皆さん、どの業界も今回のコロナ禍は想定外のことであり、苦しい状況に立たされていることは同じだと思います。本来であれば、2020年の2月3月は4月の日本選手権に向けて、この施設でトップアスリートたちの追い込み練習が予定されており予約はいっぱいで

した。ご存じのとおり、東京オリ・パラは延期され、日本選手権も中止になったことから予約はなくなり、この施設も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4月5月と完全休館となりました。6月には再開しましたが、6月7月の施設予約は皆無でした。施設がスタートして私の勤務も1年間経ってはいますが、当初想定していた業務をやっているようでやっていない状況で一連の流れをつかめなかったというのが今の正直な感想です。しかし、そんなことばかりは言ってられません。延期された東京オリ・パラに向けて選手は動いています。私たちも必要とされたときに必要以上のサポートをできるように、こうした状況下であっても準備していかないといけないと思っています。

## 今後について

私には仕事のモットーがあって、それは心遣いであり、おもてなしの心であり、そうして真摯にお客様と向き合ったことで「湯の丸のおかげで良い結果が出た」と言ってもらえるような仕事をする事です。

私は、「一期一会」という言葉が好きで人との出会いを大事にしています。これまでの私は人との出会いやつながりによってやってこられたと言っても過言ではありません。今の仕事に就けたのも水泳をやっていたことが大きかったですし、前職での経験や教えてもらったことなどが今に活かしています。オリンピックアスリートとパラリンピックアスリートとを隔てなく、心を見つめて接することができるのは、前述した木村敬一選手との関係性がとても大きいです。アスリートの皆さんから、「気持ちも含めて理解してくれる人がいて心強い」と言っていただきますが、それは多くのアスリートの皆さんから学ばせてもらっているからだと思いますし有難いことだと思います。

今後についてですが、東京オリ・パラが終わっても私の仕事は当然続きます。これは私の個人的な見解ですが、おそらく東京オリ・パラが終われば、選手に対するスポンサー数は減ることが考えられますし、そうすると施設の利用者も減るだろうと想像できます。減るかも知れませんが、この施設の需要がなくなることはないと思います。常に需要はあるはずです。トレーニングという意味ではプールを使うのは水泳選手だけではないかも知れません。

せっかく選手たちに自分の視野を広げてもらったので、海外含めて他の施設の良い点はどんどん取り入れて、練習ができる施設ということだけではなく、気持ちなどのコミュニケーションも含めたトータルケアができる施設を目指して頑張っていきたいと思っています。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年10月31日にインタビューした内容をまとめたものです。